

# A-109 進行性筋ジストロフィー症の臨床的研究 —特にその栄養学的問題点について—

別府短大 豊田 幸子

1. 進行性筋ジストロフィー症は、現在なお、医学的に原因不明といわれ、筋肉自身が冒され、年月とともに進行し、筋肉の萎縮、脱力、その他の変化を伴いつつ病型によってはその生涯が約20年で終わる。日本での罹患者は約4万人と推定されている。

演者は本症の病理および治療などの知見を得るため、患児に対する栄養学的研究を志し、本報ではそのいとぐちとして、仮性肥大型に対し経過年数、障害度別に栄養調査を実施し、臨床的所見との関係について検討した。

2. 対象：国立療養所別府石垣原病院、筋ジストロフィー病棟の患児40名から、主治医により選出された障害度別各10名の2グループ。

給食および調査：個人別に給与量および、残食量を補食も含め毎食ごとに可及的正確に全量測定し、栄養素摂取量を求めた。

臨床的所見：主治医により、調査直前・直後の詳細な検診および、体重、血清タンパク質の測定。

3. 以上の試験調査によって本症障害の強度および経過年数と(1)全栄養素摂取量、(2)タンパク質、(3)脂質、(4)糖質、(5)血清タンパク質、(6)基礎代謝量、(7)嗜好状態などとの関係を明らかにすることができた。